

平成 28 年度末下水道革新的技術実証事業評価委員会の結果について

- 車両牽引型深層空洞探査装置の実用化に向けた実証研究（川崎地質・日本下水道事業団・船橋市 共同研究体）

チャープ式の採用およびマルチチャンネル化による探査を行い、1.5m 以深および取付管起因の空洞を検知する等、一定の成果が得られている。

この技術の確立においては、さらに多くの事例を積み重ねた解析が必要であることから、そのための調査をもう一年継続することが望ましい。ただし、一部路線においては、必要なデータを確実に取得できる都市・路線を国総研が選定して実証を行うことが望ましい。